

故 名誉員 元会長 辰馬鎌蔵君 略歴



土木学会 元会長 辰馬鎌蔵君は、昭和 34 年 5 月 11 日、東京都において突如として永眠された。

生前すでに、在官中の功績により従三位・勲二等に叙せられていたが、この卦に接し、閣議決定にもとづき、わが国の国土保全、開発に対する君の功績の甚大なりしに酬い、天皇陛下の御裁可を経て、銀盃を賜われた。

本学会は、君の葬儀に当り霊前に香華を供え、弔詞を呈し、哀悼の意を表した。

君は明治 15 年（1882 年）2 月大阪府に生れ、明治 40 年、京都帝国大学土木工学科を卒業後、ただちに、職を内務省に奉じ、淀川改修工事、遠賀改修工事、利根川改修工事、多摩川改修工事に

従事され、昭和 3 年 4 月名古屋土木出張所、昭和 9 年 5 月東京土木出張所の所長を歴任され、昭和 11 年 11 月、内務技監に任ぜられ、昭和 14 年 6 月退官せられた。

在官中、君がわが国土木事業、特に治水工事に残される功績は大なるものであつて、君が、工事主任として計画され、実施されたる多摩川改修工事は、他の河川に見るごとく、その後再び手を加うることなく、永遠に洪水の災厄を断ち、君が出張所長として、計画を改訂せられたる利根川改訂計画は、利根川の治水を完璧ならしむるものとして、その計画を根幹として、今日その工事が進められている。これらの例に見るごとく、道路に、港湾に、等々、わが国の土木に残されたる君の技術は、大なるものであつて、万民その恩恵に浴し、後進またその技術を範とし、君の肉体は死しても、永遠に生きている。

退官後もなお、土木会議員、国土審議会議員、河川審議会議員として、およそわが国の土木工事、土木行政のすべてに関し、君の意見を求むることが多かつた。

都府県、市、等における、技術指導の求めには快く応じて、常に土木界のため、力を尽されていたが、特に、退官者に工事の計画、実施の機会を持たしむべく、共栄興業株式会社を設立され、薄給に甘んじ、私財を投じ、実務をとり、受負会社として、測量設計事務所としての理想的な運営をなし、その努力の結果、今日各方面の信頼のもとに経済的にも成り立つて行く会社に育て上げられた。

退官者にして、この会社に職を奉ずる、奉ぜざるを問わず、この会社に集まつて、生々として技術を談じつつ君の指導を受けていたのであつた。

土木学会においては、昭和 13~14 年の会長として、学会の運営に尽力せられ、本会はもちろん土木技術の進歩発展に寄与せられた実績は、大なるものであつた。本会はここに重ねて哀悼の意を表する次第である。享年 77 才。 (正員 工博 金森 誠之・記)

